

# 吉三郎の墓と伝説

土屋北彦

井原西鶴の小説「好色五人女」の第四話「恋草からげし八百屋物語」に出てくる八百屋お七と、小姓吉三の悲恋物語りは、芝居や映画でも有名だが、その吉三こと小野川吉三郎の墓が、杵築市大字本庄にあるという伝説が、土地の古老たちによつて伝えられている。

伝説というものは、往々にして歴史の隠れた部分を表明してくれるものである。これに事実の裏付けを与えれば、伝説は史実にとつて変わる可能性を充分に持つているものである。

八百屋物語りのように巷間に広く知なれた物語りの場合、お七の墓や吉三の墓は全国各地で、この杵築の場合同様見られることは当然であるが、それにせよ幾分か興味深い問題を持つていることは否定できない。杵築市の場合を述べて見よう。

杵築市の旧八坂村では、古くから次のような手毬唄が伝わ

吉三郎の墓と伝説

つている。

一つとや 人も通らぬ山道を、お七と吉三が牛を曳いて、通ろうかいな。

二つとや 双股大根離れても、お七と吉三は離りやせぬ、  
おお離りやせぬ。

三つとや みごとな簪買うて来て、お七にささせて姿態しなを見る、おおしなを見る。

四つとや 用もない勘当は二度三度、お七と吉三は五度七度、おお五度七度。

五つとや いづみ新田巻煙草、お七に喫わせて香りよきく  
おお香りよきく。

六つとや 向うの小山に花が咲く、お七と吉三も咲いている、  
おお咲いている。

七つとや 何を言おうも語ろうも、お七と吉三は初心うがじやもの、  
おお初心じやもの。

八つとや 屋敷ひろめて家建てて、お七と吉三が寝て語る  
おお寝て語る。

九つとや ここに流行らぬたいまほし、買うて下んせ吉三さん、おお吉三さん。

十とや 遠いお江戸で買おうより、近い別府で買わしやんせ、おお買わしやんせ。

十一とや 一々わたしが悪かつた、こらえて下んせ吉三さん  
おお吉三さん。

十二とや 十二の薬師に願かけて、お七と吉三が願ほどき  
おお願ほどき。

十三とや 十三参宮をするときにや、留守を頼むぞ吉三さん  
おお吉三さん。

十四とや 十四の白歯に金醬かねかみつけて、嫁入り姿を見ておくれ、おお見ておくれ。

十五とや 極楽浄土に詣るとき、連れて行かんせ吉三さん  
おお吉三さん。

十六とや 十六羅漢は薄羅漢、お七と吉三は坊かん、おお坊かん。

十七とや 質に置いたる櫛くしこうがい、受けて下んせ吉三さん

おお吉三さん。

十八とや 八幡地獄に墮つるとき、助けて下さい吉三さん、

おお吉三さん。

十九とや 九万九千の寺々に、詣ろうじやないかえ吉三さん、おお吉三さん。

二十とや 俄かに咲いたる菊の花、採つて下さい吉三さん  
おお吉三さん。

この数え唄は、他の地方で例えばお夏清十郎の関係でうたわれていることもあり、数え唄の定式でもあるのだが、ここではお七・吉三の関係が、或る時はロマンチックに、またある時はリアリスチックに、そして批判的に扱われていて、杵築地方と関連のある言葉も多い。前半十まではお七と吉三の二人が第三者の眼から唄われているが、後半では殆んどがお七の立場から唄われているし、各所に矛盾が見られる。

さて問題の吉三郎の墓であるが、この墓は杵築市大字本庄正寛寺の境内にある。

正寛寺は、数年前、失火から本堂を焼失してしまい、今では吉三郎が建立したと伝えられる釈迦堂※IIだけが残っているがこの釈迦堂の中に、十あまりの羅漢（前記手毬唄の十六羅漢

と関連があるか」と、赤銅造りの釈迦像が安置されている。像は身の丈二メートルあまりの座像で、背部に製作者の名を連らね、前部の台座には、延享元甲子四月初八日、正覚寺六世喚与代 為三界万靈幕十方他力造立之、随喜施主寂与是三比丘の文字が刻まれてある。

この是三比丘が吉三郎であるという想定のもとに、寺の裏手の墓地を採して見たところ簡単に墓は発見した。

正覚寺の本寺である杵築市寺町の正覚寺には、この伝説を裏付ける資料があつた。それは高さ三〇センチの地藏菩薩の厨子で、吉三郎の所持品と伝えられている。厨子の背に、我等本尊地藏菩薩杵築新町美満屋孫十郎念仏に而御座候間若我等相果候共何方よりも美満屋方江仰送り届け可被下候中野原正寛寺隠者は三。

と認されている。更に正覚寺先住の時代までは、お七の片袖と称するものが寺に保管されていた由である。

過去帳を見ると、<sup>※Ⅲ</sup>是三比丘は寛延二年十二月二十日歿となつていて、俗名はない。寛延二年と言えば、八百屋お七が火あぶりの刑に処せられた天和三年から、数えて六十七年目にあたる。当時吉三郎もお七と同じ年の十七才であつたから、

吉三郎の墓と伝説

もしこの是三比丘が吉郎であつたなら、彼は八十四才の長寿を全うしたことになる訳である。

だが果たして、この是三比丘が吉三郎であるかどうか、これを裏付ける資料は今のところ見当たらない。強いてこじつければ、是三と吉三の類似ということがある。出家の際、俗名の中の一字を用いることは多いのだから、この推量も出来なくはないかも知れない。

以上のことから推論すると、出家した吉三郎が、お七の菩提を弔うために、諸国を行脚して、ここ豊後国杵築に至り、旅館美満屋など特志家の援助によつて、釈迦堂を建立し正覚寺の住持となつてこの土地で一生を終つたということになるわけであるが、果たしてどうであろうか。

〔日本俚謡作家連盟代表〕

註Ⅰ・二十までのうち正確に意味の擱めないものもあるので、その部分は仮名書きにした。

註Ⅱ・釈迦堂は現在農家の物置きになつている。何とか保護の方法を講じたいものである。

註Ⅲ・背面には、延享元甲子年七月吉祥日、豊後府内駄原鑄師植木  
□左衛門藤原政次 同名平三郎藤原政□ 同名貞助藤原政光

同名六郎共衛藤原政満 □ 同名彦市藤原政満 渡辺仁兵衛藤原  
康成の文字が見える。

註Ⅲ・寂与称阿是三比丘、寛延二己年十二月二十日歿、中ノ厚正寛  
寺開山、当山弟子（正覚寺過去帳）

註Ⅴ・振袖火事は天和元年、お七の放火は天和二年十二月である。  
註Ⅳ・一説には十五才という。それだと八十二才歿となる。

追記——工藤覚治著・井上厚男編「杵築郷土史」に、

「……この寂与是三比丘が果して彼の情人吉三郎なるか、八百屋  
お七は太兵衛の娘にして己が家に放火したるは天和二年十二月二  
十八日にして刑死は天和三年三月二十九日なり、時に十六、法名  
を妙栄禅定尼といひ、墓は小名川白山下円乗寺に小やかなる半ば  
破れたる石塔猶存せり、世俗いふところの吉三郎はお七をそその  
かして放火せしめ、お七と同刑に処せられたる悪党なり、真の情  
人は円乗寺に住み小姓妾にて仕へたる山田左兵衛といふ美少年な  
り、お七刑死の後左兵衛その追善菩提のため目黒の大円寺に籠り  
西蓮と改め念仏三昧に耽り元文二年十月四日往生を遂げたり、時  
に年七十といふ、今も尚同寺には西蓮の木像及び叩きたりといふ  
鉦存せり、之によれば正寛寺釈迦金仏建立の延享元年は吉三郎の  
お七と同刑に処せられたる天和二年より六十三年目に当り、真の  
情人山田左兵衛の西蓮の死したる天文二年より八年目に当れり」

とある。この方が真相かと思われるが、何といつても伝説の範囲  
を出ないものであるし、是三比丘が誰にせよ、釈迦堂建立という業  
蹟に照らしても、伝説的興味以上に考えさせられるものがあると思  
われる。

大分市上野丘地区内文化財のあらまし ③

宝戒寺

- |             |          |             |    |
|-------------|----------|-------------|----|
| 1、金剛宝戒寺傍額   | 伝武天皇宸筆   | 2、本像釈迦像     | 本尊 |
| 3、涅槃書像      | 大巾軸物     | 4、木造不動明王像   |    |
| 5、木造四天皇像    |          | 6、木造十一面観音立像 |    |
| 7、礎石と瓦      | 平安時代     |             |    |
| 8、木造大日如来坐像  | 大日堂にあり丈六 |             |    |
| 9、木造金剛力士像   | 二体       |             |    |
| 10、雪舟天開図東棧碑 | 境内門前     | 11、契冲自筆大智度論 | 壹冊 |
- 弥栄神社

- |            |           |          |        |
|------------|-----------|----------|--------|
| 1、陣太鼓      | 伝松平忠直奉納   | 2、千鳥の香炉  | 伝大友氏所持 |
| 3、祇園宮縁起    | 元禄十一年卜部氏書 | 4、楼門     |        |
| 5、唐獅子      |           | 6、祇園の獅子  |        |
| 7、遊焉館の図    |           | 8、伊勢物語   | 古写本    |
| 9、新三十六歌仙色紙 |           | 10、祇園会絵図 | 絵馬     |
- 其他 地区内所在するもの
- |            |        |
|------------|--------|
| 1、大友屋形跡記念碑 | 元町     |
| 2、岩薬師      | 元町     |
| 3、岩屋寺      | 古国府    |
| 4、百合若大臣塚   | 元町大学東側 |
| 5、上野丘墓地公園  |        |